

会議名	第6回新城市公共施設再配置計画検討委員会		公開
日時	令和8年5月13日(水) 午後6時30分～午後8時22分	場所	市役所本庁舎 4階会議室
出席者	(委員) 杉木直、吉村輝彦、村松昂章、浅井泰博、片桐幹久、垣内隆由、河村晶子、岡山ひろみ オンライン出席		
	(事務局) 総務部：吉林部長 資産管理課：河村課長、竹下副課長、鈴木主任 (支援委託業者) ランドブレイン株式会社名古屋事務所：伊藤、松波、谷口		
欠席者	原田真弓、河合好彦	傍聴者	なし
配布資料	第6回新城市公共施設再配置計画検討委員会 次第 資料1 - 1 検討の進め方(本日の位置づけ) 資料1 - 2 委員意見検討一覧表(第5回検討委員会の意見と対応) 資料2 - 1 新城市公共施設等総合管理計画(中期計画・原案) 別紙 目次抜粋版 資料2 - 2 施設再配置計画(素案) 別紙 中心施設抽出結果(案) 別紙 一次評価結果(案) 別紙 舟着地区施設再配置計画(案) 資料2 - 3 関係所管課との検討状況 資料3 - 1 市民まちづくり集会の開催報告 <div style="text-align: right;">委員会限り資料</div>		

議題・議事・発言等(要点記録)

1 開会

(1) 開会宣言

事務局	事務局から開会宣言を行った。 吉林部長から挨拶を行った。 事務局から配布資料の確認を行った。 杉木委員長から挨拶を行った。 出席状況を確認し、委員8名の出席を把握した。
-----	--

2 議事

事務局	本委員会は原則として公開である旨を説明した。 また、会議録の公開にあたり、本委員会の内容を録音する旨を説明した。 議題の進行について、杉木委員長に依頼した。
-----	--

(1) 前回の振り返り

事務局	資料1-1に基づき、「本日の位置づけ」について説明した。 資料1-2に基づき、「第5回検討委員会の意見と対応」について説明した。
-----	---

< 質疑応答 >

質疑はなし。

(2) 新城市公共施設等総合管理計画の改訂及び新城市公共施設個別施設計画（第2期）策定について

事務局	資料2-1に基づき、「新城市公共施設等総合管理計画（中期計画・原案）」について説明した。 資料2-2及び別紙に基づき、「新城市施設再配置計画（素案）」について説明した。 資料2-3に基づき、「学校施設に関する教育部局との検討状況」について説明した。
-----	--

< 質疑応答 >

委員	資料2-2について質問。公共施設の再配置を考えるうえで、移動の観点は一セットで考える必要がある。一次評価の評価項目における「交通利便性」を「施設からの最寄りバス停までの距離」として評価してよいのか。施設間の移動についても考慮すべきではないか。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、評価項目を見直す。

委員	資料2-1について意見。p.27のイメージ図について、中心施設と学校が別物として描かれているが、学校施設が中心施設となり得る場合や、学校と周辺施設が複合機能を持つ中心施設となる場合もあるのではないかと。また、図の描き方として、中心施設を起点に距離感で色分けされているように見えるが、地域の人々の目線から見た場合、中心施設ありきで外側に広がっていくような印象を与えかねない。民間施設や福祉施設など周辺のさまざまな施設との繋がりも含めた見せ方を検討した方がよいのではないかと。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、表現を見直す。

委員	資料2-1について意見。p.23の数値目標の設定イメージについて、物価
----	-------------------------------------

	上昇を加味すると表現が変わってくるのではないか。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、検討する。
委員	推計費用の根拠を明確に示したほうが市民の理解が得られるのではないか。
事務局	20年間のある程度の物価上昇率を見込んで検討を進めていきたい。
委員	資料2-1について質問。p.32に記載の状態監視型保全について、評価体制はどのように検討されているか。
事務局	各所管課による日常点検を年2回、建築技師による施設劣化度調査を5年に1回実施している。
委員	資料2-1について意見。公共施設を縮充していかなければならない必要性は、市民にとってなかなか伝わりづらい。その点について追記する必要があるのではないか。市民が主体的に考えられるような説明があるとよい。
事務局	資料2-1の第2章においてその内容を記載しているが、より分かりやすい表現に見直していく。なお、市民ワークショップにおいては、分かりやすい表現で説明を行った。
委員	資料2-2について質問。交通利便性の評価において、バス停までの距離だけでは不十分ではないか。新都市は車社会であり、その実態に合わせた評価とすべきではないか。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、駐車場データ等の活用も含め、評価項目を再整理する。
委員	資料2-3について質問。部活動の地域移行に関して、意欲のある市民も関わられるような仕組みをつくることはできないか。
事務局	地域での利用実態を踏まえながら、学校施設の再編のあり方を検討していく。
委員	資料2-2について質問。利用状況・需要の視点から評価するにあたり、1㎡あたりの数値で算出しているのはなぜか。
事務局	偏差値化して評価するにあたり、施設規模の大小に左右されず比較できるよう、1㎡あたりの利用者数を指標としているためである。
委員	資料2-3について質問。「新都市小中学校適正規模・適正配置に関する基

	本的な考え方」は年度内にとりまとめられる見込みか。
事務局	現在庁内で検討を進めているロードマップを活用しながら、都度更新して内容を公表していく方針であるため、年度内に完成した形で公開できるかは未定である。学校施設の再編スケジュールと個別施設計画との整合性についても考慮しながら取りまとめを進めていく。
委員	資料2 - 2について意見。地域区分について、本計画においても引き続き新城・鳳来・作手の3地域の区分けで再配置を検討していくのか気になった。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、再配置における地域の区分けについて検討していく。
委員	資料2 - 3について質問。コミュニティ・スクールへの切り替えについて、期限を設定してもらえると地域側が動きやすいのではないか。
事務局	学校運営協議会の設置は学校教育指導室が所管しているため、担当者に地域団体との調整状況や現時点での取り組み内容を確認し、情報を展開する。
委員	学校統廃合の移行期間における対応やフォローアップについて、市としての考え方はあるか。
事務局	所管課において部活動に関する考え方は持っているものと認識している。統廃合の移行期間についてはシミュレーションが必要と認識しており、関係課との打合せを予定しているため、引き続き検討を進めていく。
委員	資料2 - 2について質問。交通利便性の評価において、コミュニティバスのバス停も評価対象に含めるべきではないか。
事務局	いただいたご意見を踏まえ、評価項目を再整理する。
委員	資料2 - 1について質問。p.23の数値目標において、現在の更新費は物価上昇を加味しない現状の平均値という理解でよいか。建設コストが200%とも言われる中、物価上昇率を見込まないと非現実的な計画になるのではないか。また、機能向上コスト0.10億円の根拠は何か。
事務局	機能向上コストは1㎡あたり1,000万円で設定しており、他の自治体が採用した金額を参考にしたものである。独自の根拠データはないため、他自治体を参考にした旨を計画に記載した上で、この金額を上限値として位置づける表現にするのが適切と考える。
委員	機能向上の具体的な内容はこれから各地域で協議していく話であり、これまでのワークショップの結果を反映していく流れになると思うが、その中

	身まで計画で決めることはできないという理解でよいか。廃止等の内容だけが示された計画になった場合、「何のために計画を策定したのか」という疑問につながりかねない。施設再配置の骨格部分は計画に示しつつ、新たな機能の付加については各地域の再編プロセスの中で考えていくのだという旨を計画に明確に示してほしい。
事務局	そのとおり。最終的には地域の協議を経て具体的な内容を組み込んでいく形になる。いただいたご意見を踏まえ検討する。
委員	数値目標の削減率と更新費用の関係を直線で示しているが、実際は施設ごとに固定費と変動費が混在するため線形には減少しない。ただし、厳密な積み上げは困難であり、この方法自体はやむを得ないと理解している。物価上昇分についてはある程度見込むことが可能なはずである。実際の削減状況と目標値に乖離が生じた場合を見据え、計画のPDCAサイクルや推進体制の部分をもう少し具体的に記述してほしい。また、学校運営協議会でのあり方検討の結果を個別施設計画に反映できるのは、計画策定後の見直し段階になるという理解でよいか。
事務局	そのとおり。
委員	そのタイミングが今の説明では分かりにくかった。各地域の協議や学校運営協議会での検討結果を見直しに反映していく流れをしっかりと記述してほしい。また、何年おきにどのような見直しを行うかという年次スケジュールと、それに対応した管理体制についても合わせて示してほしい。
事務局	PDCAサイクルおよび推進体制の記述を充実させる方向で検討する。
委員	資料2 - 2について質問。二次評価・総合評価のやり方のイメージは理解できたが、定性的な評価結果をどのような形で示すのかを確認したい。×等の記号で示すのか、語句による記述にとどまるのか。示し方によって計画に載せる内容のイメージが変わってくる。また、p.13~14の地域ビジョン部分は、二次評価を加える前に再構成・再整理を行ってほしい。
事務局	二次評価の考え方はロードマップの「再編の方向性」の項目に提示する形を想定している。p.13~14については再構成・再整理を行った上で評価を進める。一次評価の偏差値の示し方についても、分かりやすい方法を検討する。
委員	個別施設計画が最終的な結論として受け取られることは避けるべきである。市民アンケートやワークショップで把握した地域ニーズは反映しているが、施設統合後の新たな機能の実現についてはこれからの検討課題である。計画p.54に示されている推進体制のもとで継続的に取り組んでいくことが明確に分かるような記述を盛り込んでほしい。また、p.54の推進体制

	図において、地域協議会や学校運営協議会の位置づけが図の中で分かりにくいため、表現を工夫してほしい。
事務局	ご指摘を踏まえ、計画の記述および p.54 の推進体制図の表現について改善を図る。

3 その他

(1) 市民まちづくり集会の開催報告について

事務局	資料3 - 1に基づき、「市民まちづくり集会の開催報告」を行った。 次回の検討委員会は令和8年8月から9月頃に開催する予定である。
-----	--

4 閉会

事務局	事務局から閉会の挨拶を行った。
-----	-----------------

以上